

## 報 告

## ジャパンパラアルペンスキー競技大会

特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟 平野 敦司

## 1. はじめに

ジャパンパラ競技大会（以下 JP）は、現在夏冬合わせて 5 競技（陸上競技、水泳、アーチェリー、アルペンスキー、クロスカントリースキー）が開催されている。スキー競技は、1994 年から始まり、現在は、公益財団法人日本障害者スポーツ協会と障害者スキーの統括団体である特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟（以下 SAJD）が共催している。また、2012 年より、名称が「ジャパンパラリンピック競技大会」から「ジャパンパラ競技大会」へと変更された。

## 2. ジャパンパラスキー競技大会の概要

JP スキー競技は、アルペンスキー競技（以下アルペンスキー）とクロスカントリースキー競技（以下クロスカントリースキー）を開催しており、アルペンスキーは国際パラリンピック委員会アルペンスキー部門（IPCAS）ポイントが獲得できる国際パラリンピック委員会（IPC）公認競技会となっている。アルペンスキーは、スーパーコンビ（SC、SG と SL 各 1 レースの合計）、スーパー大回転（SG）、大回転（GS）、回転（SL）の 4 種目、クロスカントリースキーは、クラシカル（男女 5km）、シット（男子 10km、女子 5km）、フリー（男子 10km、女子 5km）、シット（男子 5km、女子 2.5km）の 4 種目を実施している。

障害者スポーツは、障害の種類や程度によってクラス分けが行われるが、スキー競技の大きな特徴は、クラスごとの係数を実タイムに掛け合わせてリザルトを算出するパーセンテージ制を導入していることで、表彰は、立位（スタンディング）、座位（シット）、視覚障害、知的障害、聴覚障害の 5 つのカテゴリーごとに行っている。IPC では知的障害と聴覚障害の競

技を実施していないが、JP では日本独自のカテゴリーとして位置づけ実施している。

また、SAJD では指定競技会の成績（タイム差）を元に SAJD ポイントを作成し、ランキングをもとに強化指定選手（日本代表候補選手）を選考している。JP は指定競技会の一つとなっている。

## 3. 2012 ジャパンパラスキー競技大会

2012JP は、クロスカントリースキーが 2 月 18 日～19 日に長野スノーハープで、アルペンスキーが 3 月 22 日～25 日にオーストラリア、イランからの参加により「IPC アジアカップ」として長野白馬八方尾根スキー場で開催された。

アルペンスキーは、異常気象の大雪と雨のため、コースコンディションを考慮し、競技日程が毎朝のように 3 回も大きく変更され、GS、SC、SL の実施となった。GS は強化指定選手が順当に上位を占め、男子立位では、小池岳太選手が 1 位井上真司選手に 7 秒の大差をつけ 1 分 58 秒 73 で圧勝、3 位には 1 本目 4 位の伊藤史雄選手が入った。



GS 優勝の森井選手（写真提供：エックスワン）

男子座位では、森井大輝選手が 2 位谷口彰選手に 2 分差をつけ 1 分 58 秒 51 で優勝、2012 ワールドカップ総合優勝の実力を見せた。3 位は狩野亮選手が 2 本目にラップをとり 6 位から逆転した。男子知

的障害では、2012 知的障害者世界選手権総合優勝の田川聡史選手が2分19秒16で優勝、2位に木村嘉秀選手、3位に加藤慎弥選手が入った。女子知的障害は松本馨代選手が2分40秒48で優勝。女子座位では、大日方邦子選手が2分12秒91で優勝、2位は青木辰子選手、3位には弱冠16歳の村岡桃佳選手が入った。男子視覚障害はオーストラリアのウォルシュ選手が2位田中千章選手に28秒の差をつけ2分09秒46で優勝した。

SCは、男子立位は小池岳太選手が1本目のSGのタイムを守り、2分01秒00で2冠達成、2秒91差の2位に井上真司選手、3位に白藤友一選手が入った。



SC 優勝の山本光文選手（写真提供：エックスワン）

座位は、大波乱があり、2本目のSLで有力選手の鈴木猛史選手、森井大輝選手、横澤高德選手が次々コースアウト、狩野亮選手は1本目のSGで首を痛め2本目スタートできず、生き残りを制した山本光文選手が2分02秒70で1本目5位から逆転で優勝、2秒差の2位に夏目堅司選手が、3位には谷口彰選手が入った。男子知的障害は田川聡史選手が22秒差をつけ圧勝して2冠達成、2位高橋順士選手、3位阿部憲太郎選手だった。女子座位は青木辰子選手が2分9秒80で圧勝。女子知的障害は松本馨代選手が2分51秒47で優勝した。男子視覚障害は田中千章選手が2本目のSLでコースアウト、オーストラリアのウォルシュ選手が優勝した。

SLは、日程の関係でSCの2本面をSLの1本目とする形で行われた。男子座位は、鈴木猛史選手、森井大輝選手、横澤高德選手ら有力選手が次々脱落、2本目で谷口彰選手がコースアウトする中、夏目堅司選手が山本光文選手を逆転し1分41秒04で優勝。その差は、0.53秒だった。3位には山本新之介選



SL 優勝の夏目選手（写真提供：エックスワン）



SL 優勝の東海選手（写真提供：エックスワン）

手が5位からジャンプアップした。また、18歳西勇輝選手が5位に入る検討を見せた。

男子立位は、怪我から復帰した東海将彦選手が1分35秒24で復活優勝を果たした。2位小池岳太選手、3位井上真司選手だった。

男子知的障害は、木村嘉秀選手が田川聡史選手の追い上げを0.78秒差でかわし1分55秒31で優勝、3位に五味逸太郎選手が入った。男子視覚障害は、ウォルシュ選手が圧勝、3冠に輝いた。女子知的障害は松本馨代選手が優勝。女子座位は大日方邦子選手が1分54秒02で2冠に、村岡桃佳選手が17秒差の2位に入った。

2012JPは、強化指定選手の強さが目立つ大会となった。と同時に、強化指定選手以外の選手との差が大きいことも浮き彫りとなった。これからの選手育成、強化とともに、底辺の拡大を進めていくことが大きな課題として提示されたといえる。

公式記録の詳細は、公益財団法人日本障害者スポーツ協会、特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟のホームページをご覧ください。